

笠間市人権教育講演会

日時:11月29日(日) 午後1時30分より 場所:笠間公民館大ホール

幼少の頃、両手足を病気のために失いながらも、明治、大正、昭和の時代を前向きに生きた女性、中村久子。来日したヘレン・ケラーから、「私より不幸な人、私より偉大な人」と称賛された彼女の人生を、講師の一龍齋春水さんが語ります。

《演題》中村久子伝～生きること、生かされていること～

- 【日時】11月29日(日) 12:30開場 13:30開演
【会場】笠間市民体育館 大ホール(笠間市石井2068-1)
【講師】一龍齋春水(いちりゅうさい はるみ) 講師/声優
【料金】無料(全席指定)
【申込】いばらき電子申請・届出サービス、はがき(笠間市生涯学習課宛)
電話(生涯学習課 0296-77-1101), FAX(0296-71-3220)
※はがき、FAXでのお申込みの際は、お名前、ご住所、連絡先をご記入ください。
※お申込み後、入場券を発送させていただきます。

○中村久子さんの略歴

1897年(明治30年)岐阜県で出生。

2歳の時に左足の甲に起こした凍傷が悪化し、3歳の時には、両手足を失ってしまった。7歳の時には、父親も病気で亡くしてしまう。そのような環境の中でも祖母と母親の教育により、筆記や編み物ができるまでになった。

1916年(大正15年)、20歳になった頃には横浜市等で一人暮らしを始めた。しかし、母親の再婚相手から虐待を受けるようになり、身売りされる形で、「だるま娘」の名で見世物小屋で芸人として働くようになり、両手の無い体での裁縫や編み物を見せる芸を披露した。

後に結婚、子供にも恵まれるが、祖母や夫をたて続けに亡くしてしまう。その後も女手一つで子供たちを育て上げ、1934年(昭和9年)に興行界から去った。

1937年(昭和12年)、来日したヘレン・ケラーに、口と肘の無い腕を使って作った日本人形を贈った際、ヘレン・ケラーは、久子を「私より不幸な人、私より偉大な人」と称賛した。

50歳頃より、執筆活動、講演活動、各施設慰問活動を始める。

1950年(昭和25年)54歳の時、故郷である高山市の身障者福祉会の初代会長に就任した。1968年(昭和43年)、脳溢血により、高山市の自宅において死去。享年72歳。



この件に関するお問い合わせ

笠間市役所 生涯学習課 担当:掛札

電話番号:0296-77-1101(内線385) ファックス番号:0296-71-3220 e-mail:gakushu@city.kasama.lg.jp

○一龍齋春水さんについて

声優「麻上洋子」として活動する傍ら、講談師初の人間国宝「一龍齋貞水」に入門。2004年の真打昇進を経て、2012年には、講談師と声優の芸名を「一龍齋春水」に統一。その後も声優としての表現力と、講談話芸の深みを融合させ、「金子みすゞ」「中村久子」「樋口一葉」など女性の一生を意欲的に創作している。

■声優の代表作

「宇宙戦艦ヤマト」	森雪
「銀河鉄道999」	ガラスのクレア
「名探偵ホームズ」	ハドソン婦人
「おばけのQ太郎」	ユカリちゃん
「シティーハンター」	野上冴子刑事
「若おかみは小学生」	祖母 峰子

